



「嚶鳴クリエイティブ・ラボ(OCL)」活動報告

今回は、1年次の「総合的な探究の時間」の活動をご紹介します。

東北芸術工科大学から講師の先生をお招きし、探究の手法であるデザイン思考を学ぶ授業と探究テーマの設定を考える授業を開催しました。デザイン思考を学ぶ授業では、身近な課題を通してアイデアの広げ方やまとめ方を学びました。また、テーマ設定を考える授業では、自分の興味を探究する対象に育てるための具体的な方策や事前調査の重要性を学ぶことができました。

1年次生は、これらの授業で学んだことを活かしながら「山形を知る」という大テーマのもと山形県が抱える様々な課題について、グループで調査・研究を行い、高校生の視点から解決策を提案していきます。

●講 師 東北芸術工科大学 デザイン工学部プロダクトデザイン学科 教授 柚木 泰彦 氏

デザイン工学部企画構想学科

講師 田澤 紘子 氏

●生徒感想

- ・これまで、探究活動は一人で黙々と考えるものだと思っていたけど、より多くの人の考えを取り入れ、自分の考えを深めて行くことだとわかりました。また、どうしても自分ごとと考えられない大きいこと(世界のことや SDGs)もデザイン思考によって段階的に考えやすいテーマに変えることで、深く物事を考えられることがわかりました。
- ・様々な視点を入れることで考えが広まる楽しさが学べた。自分以外の考えを知る大切さ、人の考えを応用して新たな考えを作る楽しさがあった。
- ・デザインとは図を書いたりすることだと思っていたが、他者と共同して探究する意味が込められているとわかった。また、ひらめきは自分でするだけでなく他の人と共有して広がるものだとわかった。何かを考えるときは収束と発散をバランスよく組み合わせて筋道を立てるべきだと思った。時間で物事を区切ることでそれがよりスムーズになると思った。
- ・アイデアが浮かんだら、5W1H(誰が?いつ?どこで?何を?誰のために?どのように?)を活用してより具体的に詳細化することが、実現に向けたための第1歩だということがわかった。また、班の友達と交流することで、新たな視点が見つかり、よりよいものにしていけると気づいた。
- ・前ははだいたいで考えていたことをより詳しく深掘りして行って、だんだんアイデアが膨らんでいく感じが楽しかったし、新しい発見も沢山あったので良かった。これからの活動も頑張っていきたい。
- ・自分の好きなことや興味のあることから、論文まで広がるとは思っていませんでした。探究することは難しい内容ではなくとも身近なことからできることを知りました。また、すぐに行動しようとフィールドワークをするのではなく、事前に綿密なデスクワークが必要なことを知りました。
- ・テーマと対象は全く違うことが分かった。自分の興味があるものを対象にして探究できるものに変えていくと学んだ。また、主観的にだけ見るのではなく客観的に見ることも大切と、新しく学べた。他の人に聞く前に自分のデスクワークを徹底的に行う必要があると理解できた。

